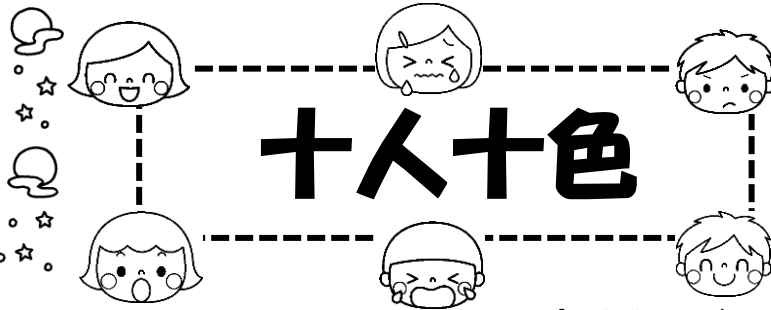


9月



十人十色

2020, 8, 31

縄瀬 保育園

山元 紀代美

NO11

(みんなちがってみんないっしょ!)

ゆきちゃんと獣医さん

ヤギのゆきちゃんが、保育園に来て3ヶ月あまり。すっかり園生活にもなれ、子ども達のアイドル的な存在になってきました。この夏はとても暑く、動物たちが夏バテしないか心配でしたが、どうやら乗り切ってくれたようで、ゆきちゃんも園庭や駐車場の草をモリモリ食べて、元気に過ごせました。園に来た時よりはたくましくなった様にも思えます。そこで最近気になる事が…それは、ゆきちゃんの「角」です。朝、職員が側に行くと、嬉しいのか？スリスリしたり、「あそんで！」という風に、じゃれているのが飛び跳ねるようになってきました。まだ2歳なので仕方がないのですが・・・でも、もし子ども達に怪我をさせたら・・・と思うと、心配になってきました。ひまわり組の子達はなんとなく分かっているようで、距離を保ち、職員がいる時だけ触ろうとするのですが、すみれ組の中には、嬉しくて近づき過ぎる子もいます。そこで、4~5cmに伸びた角を切ってもらうことにしました。

除角についていろんな方に相談しましたが、最終的には、獣医さんをお願いすることにしました。若い獣医さんで、子ども達も興味津々です。最初は「血が出るかもしれないので、子ども達には見せない方がいいのでは・・・」と言われたのですが、私としては「子ども達にぜひ見せてほしい」とお願いをしました。動物を飼育するって、楽しい、可愛いだけではない事と、獣医さんという仕事を身近に感じてほしい事をお伝えしました。

口元は綱で縛られ、暴れないように囲いに固定されたゆきちゃん。子ども達はじっとそれを見ていました。「麻酔をしますね」と首元に注射をして下さいました。それまで元気一杯だったゆきちゃんが、ぐったりと倒れ込みました。子ども達は、かたずを飲んで何も言わず見ています。ふと気が付くとH君がいなくなり、ウサギ小屋の方に離れていました。「Hちゃん、おいで！」と言うのですが、「かわいそう・・・見ていられない」と来ませんでした。

心配をよそに、ゆきちゃんの2本の角は血が出ることなく、無事切ることができました。みんなで角を見たり、触ったり・・・。まだこの時点でゆきちゃんは、ぐったりと横たわっています。H君は、まだ来ません。きっと、ゆきちゃんの痛さや怖さを自分のことのように共感したのでしょうね。感受性豊かなH君です。

若い獣医さんは「もう1本、注射をすれば元のように元気になるからね！」と子ども達に伝えて、注射をしていました。そして5分たつと、ゆきちゃんは立ち上がり、元気になりました。喜ぶ子ども達。その中にニコニコ笑顔のH君もいました。



今回、ゆきちゃんの除角を通して学んだのは、私自身でした。動物を飼育することの責任、飼育することで何を子どもに伝えるのか？子どもの心情、成長・・・いろんな事を学ばせてもらいました。そして、子どものそばに動物たちがいることの素晴らしさを改めて感じました。

子ども達に「獣医さんって仕事知ってる？」と聞くと知らない子も多かったです。でも好奇心旺盛な子ども達は、いろんな質問をしており、獣医さんも、一つ一つ丁寧に答えて下さっていました。縄瀬保育園の子ども達を見て「自由でいいですねえ！」とその若い獣医さんは、笑っていました。

もう少し涼しくなったら、ゆきちゃんの綱を引いて、お散歩一緒に行けるといいなあと思います。

